

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



スーリコフ 《女子修道院を訪れる王女》

1912年 油彩・キャンバス 92.0×132.5cm (北海道立函館美術館蔵)

スーリコフは19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍した画家で、レーピンやクラムスコイとともに、ロシア近代美術史に大きな足跡を残した「移動派」を代表する巨匠として知られています。《女子修道院を訪れる王女》は、晩年のスーリコフが力を注いだ作品で、17世紀ロマノフ王朝の王女がロシア正教の女子修道院聖堂を訪れた情景を描いたものです。画家は、実際にモスクワの修道院を数多く取材し、イコンで飾られた建物内部の様子や修道女の謹厳な生活ぶりを観察するなど、入念な準備を重ねた上で制作しています。この作品はその習作で、大きめのサイズや入念な仕上がり

具合からみて、習作としてはかなり最終的な段階のものと思われます。

この貴重な作品を函館にもたらしたのが、戦前、漁業関係の組合の職員として日ソ漁業交渉でロシア語通訳を務めた故・高井義喜久です。高井は訪ソ中の1932（昭和7）年3月、国営の美術作品販売所でこの作品を購入、函館に持ち帰りました。今日に至るまでスーリコフの油彩画としては日本に現存する唯一の作品で、先頃、函館の高井家から当館に寄贈された貴重な作品です。※2003年7月29（火）～9月23日（火）、北海道立函館美術館にて特別公開中

“美の探訪”の日記から。

北海道美術館協力会 専務理事 浦田 久



早朝、ふだんと違う寢床のなかで眼を醒ます。ゆっくりと起きあがり窓を開けると、心地よい夜明けの冷気が流れ込み、眠気の残りを吹き払ってくれる。窓下を見ると人影の無い石畳みの舗道に、街路灯がうつすらと映え、遠くの教会からは早暁の礼拝を知らせる鐘の音が響いてくる。こんな異国の風景に出会う楽しみを覚えてから、早くも十数年の歳月が過ぎ去っていった。手元には“美の探訪”に参加した折、書き綴った沢山の日記帳があり、無聊のときに慰めてくれる大切な宝物となっている。このなかから幾つかを取り出し、拙ない乍らも文責を果たしたいと思う。

始めて“美の探訪”に参

加したのは、一九八八年の十一月。アメリカ東海岸へ行った折のことである。ワシントンの市内見学をしていた折、街の中で働らく黒人労働者の多いことに驚かされた。特に屋外作業の大半がそうであり我々のバスを運転してくれたのも人の良さそうな黒人であった。ひるどき、一緒にランチを喰べるようにセットされていたのだが、彼はガイドに對し“同じテーブルに就いてもいいんですか？”と尋ねたという。

私達は改めて人種問題の根の深さについて触れたことを感じさせられた。

次いでポストン美術館で館長の出迎えを頂き、会議室で昼食となった折、ハックマン博士の隣席となり、流暢な日本語でこの美術館が何故日本美術をこれほど蒐集しえたかについて、簡明に説明して下さった。幕末から明治にかけ、日本から送られてくる美術品の隙間に、江戸時代から流行し

ていた古い浮世絵の版画が、パッキングとして使われたことに着目し、それが始まりであるという、なんとも惜しいような、楽しい話題であった。

米の最後はN・Yで、今ももう見ることの出来ない、世界貿易センタービルの一〇七階で見た景観の素晴らしさは眼に焼きつくようなシーンであった。

そしてメトロポリタン美術館は、その規模、内容の壮大さは当然としても、特に心に残ったのは正面入り口の階段に腰をおろし、現地の若者達と一緒に陽を浴びながら喰べたハンバーグが、忘れられない思い出となっている。

アメリカという国、一言では総括出来ないが、とにかく若い国であること、そして雑然



ベルリンの壁

としていながらも、巨大なエネルギーに満ちていることを肌にしみて実感させられた。

次いで一九八九年十月に晩秋の東欧へ出発した。最初に東西に分割されていたベルリンの市内を見学する。ブランデンブルグ凱旋門に近づくも、下車することは許されず、カメラの撮影も

遠慮して欲しいとまずいわれる。そしてベルリンの壁に至る。落葉散るなかに冷たく立つ壁の不気味さ。びっしりと書きこまれた落書きに怨念の呻きを聞く思いがする。

このとき、近くの売店に立ち寄った人から、この壁が近く取り壊されるとの信じ難い情報が飛び込んでくる。(私達が帰って早々にこれが事実となった)

そしてライブチヒ。素晴らしく美しい街であった。しかし、市内にある大学の尖塔の頂点に、真紅の星型が見えたとき、なんともこの街にそくわない風景のように思われた。午後六時、夕暮れに染まる街なかを見おろしていたとき、沢山の教会から一斉に鐘が鳴りひびき、心地よい旅情をかきたてられたことを覚えている。

翌朝、東京から来ていた職員から、明日、反ホーネッカーの大規模な集会があり、市内は危険な状況になるか

もしれぬと知らされる。それからドレスデンをへてプラハへ向かう途中、峠の上で国境越えとなり、銃を持った兵士に一人一人パスポートと照合される。その時、米国人らしい老夫婦が彼らにカメラを向け、鋭い声で制止されていたのが一層緊張感をたかめていた。

にある聖人像のかたわらで、行き交う人々の和やかな表情をしばし楽しむ。翌日、プラハ城近くの国立絵画館へ行く。巨匠たちの名作が、無雑作に展示されている様子を見る。特に小品とはいえ、名のある作家の作品が窓際に展示され、自然光と微風にさらされていることに、驚きを感じたのであるが、反面、欧州美術界の底



アッシジ

力と層の厚さを感じさせられてしまった。最後に一九九〇年十一月のイタリアへの旅が忘れられない。ミラノからローマに至る、十三日間の旅行は、まさにキリスト教文化を尋ねる旅でもあったと思う。そのなかで特に印象に残ったのはアッシジ



アッシジにて長崎出身の松下神父

であった。かつて映画「ブラザーサン・シスタームー」で少々知り得た知識しか無かったのだが、今回訪れてみて、宗教の厳しさよりも、宗教の美しさについて実感させられたと思っている。かつては刑場として恐れられていたこの場所に、聖フランチェスコが鎮魂の意味も含めてか、ここを聖地と定めて教会を建てたという。

ウムブリア平原を渡ってくる風に吹かれ、素朴で敬虔な教会の景観を見ていると、自然に畏敬の念が湧いてくるのを禁じ得なかった。また、長崎出身の松下神父による説明が、聖なる壁画のつらなる堂内に静かに

流れるひとときのこと、忘れ難い思い出となっている。——このイタリア旅行の終わり近く、引率して下さった元近美術館長の井関さんが、函館の学芸員大熊さんに語った一言が、この旅の最大の印象になったのである。それは美術館で鑑賞中の大熊さんに対し、「こんなに本物を身近かに、沢山見る機会なんてそうあるものではない。しっかりとみつめなさい。眼から血が吹き出すくらいに覚悟で見つめなさい」と言われたという。——「美の探訪」はこれからも沢山の感動を生み出してゆくと思うが、できるだけ多くの方が、その喜びを共にしていただきたいと希い、小文を終わらせて頂きます。

.....
浦田久氏(うらた ひさし)プロフィール
・昭和三年十月二十日生
・札幌出身
・札幌市役所北区長
・昭和六十一年勸札幌市青少年婦人活動協合理事長
・平成二年協力会理事・平成十二年六月専務理事に就任

北の巨匠 岩橋英遠・片岡球子展

10月3日(金) ~ 11月16日(日)

十年ぶりの二人展

岩橋英遠と片岡球子は北海道が生んだ現代日本画の巨匠です。岩橋英遠は平成十一年、惜しくも九六歳で逝去されましたが、戦後日本画の牽引者として話題作を発表し続け、七十余年に渡り画道一筋に歩まれました。片岡球子は九八歳の現在も院展に大作を発表し、愛知県立芸術大学の主任教授として後進の指導にあたるなど、活躍を続けています。当館では開館以来、二人の画業を様々に紹介、平成五年には二人展も開催していますが、本展は十年振りの大規模な二人展となります。今回は岩橋英遠の壮大なスケールの風景画、片岡球子の面構連作を主とする人物画という両者の代表作を展示。二つの絵画

世界が出会うことで、その芸術的個性はいっそう鮮やかに浮かびあがることでしょう。

しかし対照的ともいえる二人の絵画世界の形成に、故郷の風土が深く関わっていることも見逃せません。伝統絵画の流れを継ぐ日本画の世界で、戦後、時代が求めた清新な表現を生み出し得たのも、彼らが北の大地に生まれたことと無縁ではないでしょう。

岩橋英遠―道産子の眼

二一歳という青年期まで、江部乙で農事に携わりながら過ごした岩橋英遠は、後年、「何をやっても、生まれて二十年を過ごした北海



岩橋英遠「鳴門」 個人蔵

道の体験が、基準になってしまつ。私の育ったところから見回した四方の山のたたずまい、木のかたち、空、雪の世界から出るこ

とができないでいる」と語っています。北国の寡黙な農作業のなかで培われた眼差しは、自然の厳しさや神秘を鋭くとらえ、従来の花鳥画や山水画には見られない壮大なスケールの風景画を生み出しました。

片岡球子

―大地に培われた個性

豊かな色彩や奔放な線、大胆な形態によって、見る者を圧倒するようなエネルギーを発する片岡球子の絵。そこには画家も自覚する土着的な個性が見事に昇華されています。一八歳で札幌から上京した画家は、「北海道から東京に出てるんだから、こまごましてケチ臭い



片岡球子「面構」
神奈川県立近代美術館蔵

絵を描かないで、北海道の大地のような、でっかい、人が私の絵を見たら息が詰まるというような、そういう迫力の絵を描きたいと思つた」と述懐しています。伝統に縛られず、自らの個性を磨き続けた長く一途な歩みが、面構連作を始めとする、独創性の際立つ作品を生み出したのです。

関連のテレビ番組も

本展はNHK札幌放送局との共催によるものですが、同局ではふたりの画業を、その人間像とともに紹介する番組制作も予定しているそうです。併せてご期待ください。

MUSEUM CALENDAR

2003. 9月～2004. 3月

美術館の特別展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	貸 館	貸 館	10/3～11/16 北の巨匠 岩橋英遠・片岡球子展	貸 館	12/11～1/25 A★MUSE★LAND 2004 アミューズランド2004	2/6～3/21 SOUL OF ASIA 福岡アジア美術館 コレクション NOW	貸 館
三岸好太郎	9/6～10/26 北海道の水彩画		11/1～1/25 全所蔵作品展示計画②油彩編			1/30～3/28 新発見の三岸好太郎展	
旭川	9/6～10/23 舟越 桂展		11/1～12/14 木原康行展		12/20～3/28 特別所蔵品展		
函館	7/29～9/23 ユトリ口展 詩情と哀愁 -パリの街角	9/30～11/16 近代詩文書作家 創立30周年記念 詩歌と書の世界		11/23～1/12 没後20年 中原淳一展		貸 館	1/31～3/24 鶴川五郎展
帯広	8/15～11/12 帯広美術館コレクション選集 現代版画／ヨーロッパのポスター		11/21～1/28 VERY GOOD, VERY WOOD 木のワンダーランド			2/6～3/24 アメリカ現代美術展 モダニズム／新しさは何だったのか	
釧路	9/7 もやがやん芸術祭	9/20～11/24 草間彌生展		12/4～2/22 所蔵秀作展 釧路美術館コレクションより			貸 館
札幌彫刻	8/30～10/13 第11回本郷新賞 土屋公雄彫刻展		10/18～3/21 平成15年度後期収蔵品展 悲しみと苦悶の人々 無辜の民シリーズ				
札幌芸術の森	9/7～10/19 阿部典英展		10/26～1/18 北の創造者たち2003-虚実皮膜			1/24～3/28 芸術の森美術館コレクションから 森の美術散歩Ⅲ	

※貸館の場合は、会員証は使えません

道立近代美術館主催 平成15年度移動美術館

美へのいざない

北海道立近代美術館所蔵による
コレクション名品展

- 長万部町 平成15年9月11日(木)～9月15日(月)
長万部町福祉センター…山越郡長万部町字長万部413番地
- 稚内市 平成15年9月19日(金)～9月24日(水)
稚内総合文化センター…稚内市中央3丁目13番23号
- 朝日町 平成15年9月27日(土)～10月1日(水)
朝日町サンライズホール…上川郡朝日町字中央4038番地

入 場 無 料

近代美術館

SOUL OF ASIA

福岡アジア美術館コレクションSHOW

二月六日(金)～三月二一日(日)

近年、アジア地域のポップ・カルチャーが脚光を浴びています。経済成長、都市化の進展、文化交流の活発化などを背景に、映画、音楽、ファッションなどにおいて、それぞれの地域固有の文化に根ざしながら、現代的感覚がみなぎる表現が展開されており、日本においても、新鮮なショックとして、現代アジアの都市文化が受け止められています。

美術においては、これまで、それぞれの地域特有の伝統的な美術が目立っていたことが多かったのですが、近年、現代的表現への関心も高まり、なかでも福岡



R.K.ダス <リキシャ>
1994年
福岡アジア美術館蔵

岡アジア美術館は、一九七九年という早い時期から、アジアの現代美術の収集を進め、優れたコレクションを形成してきました。

本展は、福岡アジア美術館コレクションから、「家族/コミュニティ」「魂」「女」「ポップ/キッチュ」という四つのテーマのもとに、活気に満ちた今日のアジアの美術の一端を紹介しようとするものです。展覧会にあわせて、アジア映画フェスティバルなど、さまざまなイベントも予定しており、現代アジアの息吹にふれる絶好の機会となるでしょう。

三岸好太郎美術館

北海道の水彩画

九月六日(土)～一〇月二六日(日)

水彩画は、幕末から明治にかけて日本に導入され、明治後半には優れた水彩作品と愛好者の増大によって大流行しました。大正から昭和初期には全国的な水彩画新興の動きが起こり、北海道でも道展を中心に昭和一〇年代に水彩画壇は活況をみせます。その中心だったのが繁野三郎であり、佐藤進のよう



佐藤進「豊平館(聖蹟の夏)」
1942年
北海道立旭川美術館蔵

としてすぐれた作品を追求する一方で、多くの油彩画家が水彩によってユニークな作品を描いており、三岸好太郎もそうした一人です。

これまで北海道美術の中で水彩画に焦点をあてて紹介した展覧会はほとんどありませんでした。この展覧会は、戦前から戦後にかけての北海道の水彩画の展開を約八〇点の作品によって紹介するものです。

旭川美術館

舟越桂展

森から来たささやき

九月六日(土)～一〇月二三日(木)

清く澄んだまなざしではるか遠くに視線を向けている舟越桂の人間像。その内省的な表情は、私たちに人間という存在についての問を喚起させるものといえるでしょう。また近年の舟越桂は、頭部に自由なイメージの身体を組み合わせた作品に取り組むなど、さらなる表現の深化をみせています。

舟越桂は、一九五一年に彫刻家・舟越保武の次男として生まれ、東京造形大学、東京芸術大学大学院に学びました。その後、一九八〇年代初めには楠くすのきを素材に大理石の眼をはめ込んだ



「夜は夜に」2003年
個人蔵

半身像に着手し、これまでウエネツィア・ビエンナーレなど多く展覧会に出品を続けてきました。本年は第三三回中原梯二郎賞を受賞。めざましい活躍をみせています。

本展は、舟越桂の二〇年余りの軌跡をたどる初の本格的回顧展として企画されたもので、三七点の木彫作品とともにドローイングやメモ類などもあわせて展示します。現代に生きる私たちを魅了して止まない舟越桂の人間像の世界をこの機会に心ゆくまで鑑賞ください。

函館美術館

没後二十年 中原淳一展

一二月二三日(日)～

二〇〇四年一月二二日(月)

生きること、暮らすこと、全てに美を求めた芸術家・中原淳一(一九一三―一九八三)の展覧会を開催します。幼い頃竹久夢二に心酔した中原は、日本美術学校の在学中から雑誌『少女の友』を舞台に、つづらな瞳の可憐な少女を題材とした独特の挿し絵を発表し、一躍時代を代表する人気画家となりました。戦後になると、自ら雑誌『それいゆ』『ひまわり』を主宰し、独特の美学に裏



表紙原画
『ひまわり』第4巻第4号
1950年

打ちされた新しい女性のライフスタイルを提供する一方で、ファッション・デザインや音楽、演劇のプロデュース、詩など活動の舞台を果てしなく拡張していきました。そうした中原の幅広い芸術活動の全貌を、雑誌、イラストレーション、初期の油彩作品、ファッションデザイン、インテリアデザイン、人形などを含めた約三百を超える作品によって多面的に紹介します。

帯広美術館

VERY GOOD,
VERY WOOD
木のワンダーランド

一月二二日(金)～一月二八日(水)

身のまわりに存在し、大切な役割を果たしている樹木。あるときは美しい風景を創出し、またあるときはそこに宿る象徴性が信仰の対象ともなるなど、私たち人間と古くから深い関わりをもっています。

なかでも、木材の利用をおおしての関わりは多様で、私たちの文化にゆたかさを与えてきました。質感や形、色、木目などの特質が住まいや道具などの材料として活かされることはもとより、人工素材には存在しない生命感やぬくもり、神

秘感など木がもつ固有のイメージは、多くの作家たちにインスピレーションを与え、多彩な造形を生みだしています。

本展は、木にそなわるイメージや秘められた魅力に着目したいくつかのコーナーによって、木の造形作品をご紹介します。ゆたかな存在感を示す木彫、しなやかな遊具など、多彩な作品の数々により、木が繰り広げる造形世界をお楽しみください。



三沢厚彦
「Animal 2001-01」
2001年

釧路芸術館

開館5周年記念 草間彌生展

Labyrinth 迷宮の彼方に

九月二〇日(金)～一月二四日(火)

さまざまな分野で意欲的な制作を続ける草間彌生(一九二九年生)は、現在最も活躍している国際的アーティストのひとつです。本展は、見るものを圧倒し、強く心を揺さぶるその芸術の深奥に触れるものとして、北海道で初めて開催される待望の展覧会で、一九五〇年代から現在にいたる多彩な作品により、草間彌生の独特の魅惑と幻想にあふれた世界を紹介いたします。



《花 No.Q》1953年

を基底のテーマとした草間彌生の芸術に向き合う時、その迷宮の彼方には何が見出されるのでしょうか。ぜひご鑑賞ください。

渡米前後に制作され、そのほとんどが日本初公開となる彩色ドロ잉グ約七〇点をはじめ、まばゆい銀色に彩られた突起物が密集する立体造形、絵画作品や映像、さらに本展のための新作やインスタレーションなど、一〇〇点を越える作品が展示され、そこには奥深い「迷宮」が広がることでしょう。〈生と死〉

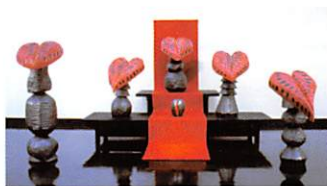
芸術の森美術館

阿部典英展 ― 豊饒なる立体

九月七日(日)～一〇月一九日(日)

札幌を拠点に制作活動続ける造形家阿部典英(一九三九年札幌生まれ)の展覧会。

高校時代に前衛的な書を通して芽生えた阿部の芸術は、独学による平面作品の制作において花開き、二〇歳代前半で全国的な公募展で佳作賞を受賞するなど、注目を集めました。その後次第にレリーフ状の作品、立体へと移行する阿部の作品は、アルミニウムやメッキ、ウレタン、木などさまざまな素材が、自由な発想のもとで時に軽快に、時に強く心



《ネエ ダンナサン あるいは壇》2001年

本展では、一九七〇年代から最新作までの発想豊かで多彩な表現の立体作品に焦点をあて、その変遷をたどることで、阿部典英の創作の源泉を見つめます。

に訴える主張をもって、新たな「生命」の姿を形づくっています。〈MOKUJIN〉や〈オヨメサン〉〈ネエ ダンナサン〉シリーズなど、ユーモラスな題名がついた作品群には、素材・手法を違えても、一貫して、その時代時代における社会の中の自己確認をなそうとする姿勢が込められています。

札幌彫刻美術館

第十一回本郷新賞受賞記念

「土屋公雄彫刻展」

八月三〇日(土)～一〇月一三日(月)

当館で創設した「本郷新賞」は、公共空間に設置された彫刻の中で特に優秀な作品一点を選びます。第十一回の今回は、過去二年間に日本全国の公共空間に制作設置された作品を選考対象として、予め委嘱した委員より推薦された二五点の作品をもとに、選考委員会において厳正な審査が行われました。その結果、和泉中央駅の和泉シティプラザに設置された土屋公雄作『時の知層』が選ばれました。



『時の知層』は10mの強化ガラスで作られています。

ラスの中に和泉市の歴史性を物語る様々な場所を採取された土を「過去の層」、プラスチック・ガラス等のリサイクルチップを「現代の層」、市内の子供たちの作った粘土細工を「未来の層」としておさめられています。和泉各地の土や砂などの素材集めや制作には、学生や市民による「アートワークボランティア」が結成されました。市民参加型のパブリックアートとして画期的なプロジェクトです。この度受賞を記念して「土屋公雄彫刻展」を開催します。展覧会では、最近作として灰やガラスを使ったインスタレーション、ガラス片の作品などをご紹介します。国内外の野外プロジェクトは、写真・パネルでご覧いただけます。

平成15年度

美術講座

82%

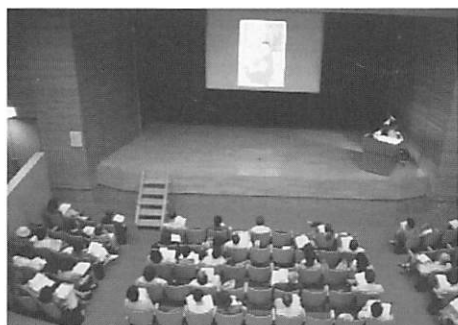
が 修了証を手に

申込時から ボランティアを募る

平成一五年度の美術講座
修了式が、七月九日に行わ
れました。今回から講座回
数が従来の一六回から一〇
回と減ったこともあり、単
純な比較は出来ませんが修
了者数の驚異的な伸びが目
立ちました。これまで六〇
%前後だったのに対し、こ
の度は八二%の方々が修了
証を手に入れました。

美術館協力会主催の美術
講座は昭和五二年、ボラン
ティア養成を目的として始
まりました。毎年四月から
十月にかけて開催。当初の
募集人員は五〇名でした。
現状のような二〇〇人体制
となったのは平成六年から
です。

およそ五年毎に見直しが行
われてきましたが、今回
大きく変わったのは講座回



数の大幅減少と申込時から
一般受講者とボランティア
希望者を分けて受け付けた
ことです。(ボランティア
希望者は講座のほか、六回
の養成研修が必須)
内容も大幅に変わり、例
えば第一回「モネと印象派」
第七回「岡倉天心と『日本
画』の誕生」などといった
ように毎回必ず中心的な人
物名を配してあるのも特徴
でした。
応募者数は極端に少なかっ
た一部の年と、雑誌等で取

- ☆第9回の講座で何故、岡本太郎なのか疑問を持ったが、これまでに批判的にみていただけに、前衛芸術の旗手としての活躍と評価に目を洗われる思いだった (F・M)
- ☆ものの見かたに新たな知見が与えられました。私の感情の狭さと先入観も見直したいです (A・R)
- ☆働いている人のため夜間(土・日曜)講座等は? (A・I)
- ☆講座で作者、作品の時代背景などを知る度、パズルが解けていくようでした (K・T)
- ☆「この位話せば」という概論ではなく「本音はもっと話したい」という熱意を感じました。学芸員皆様は専門分野を担当されたのでしょうか。それとも皆さんこの位は把握なさっているのでしょうか。素敵です (K・M)

●●●平成15年度美術講座感想文より抜粋●●●

- ☆学芸員の方の個人的な経験や考えをきくことが出来たとき内容に一層の奥行きや芸術への愛が感じられ、お話しが興味深いものに (K・M)
- ☆美術史を買って読んでみようという気になりました。 (S・T)
- ☆老齢になっての受講で修了できるかと不安でしたが、メリハリのある講座は楽しく時間の経過を忘れてしまうほどでした。ボランティアのことももっとP・Rが必要なのではないでしょうか (H・K)
- ☆次回の資料を先に渡して頂くと自宅で目を通すことができ、さらに理解が深まるのでは (Y・R)
- ☆今回はファイルを用意していただき、終了後、一冊のテキストが出来上がりました (T・R)
- ☆小樽から10回通ってきました。次年度も参加希望です (I・S)

りあげられ募集人数をはるかに上回った十年前を除き、ほぼ二〇〇人前後で推移してきました。今年の申込総数も例年通り。しかし「過去の数字がないので、正確には比べられません。若い二〇代、三〇代の方、それに男性の方は増えていると思います。それと札幌市以外の方の受講者も多くなっ

ています」(研修部)という傾向が見られました。八月二〇日から九月二四日まで希望者を対象にしたボランティア養成全体研修が開催されています。できるだけ多くの方々が全講座を修了し、七部のうちのいずれかの部に属し、実際に活動に入られることを願ってやまないとあります。

芸術週間

芸術週間は11月1日(土)～7日(金)。ミュージアムコンサート等のアート・イベントを開催します。期間中は“これくしょん・ぎゃらりい”は入場無料です。

A・RE・KO・RE

会員証の「同伴者1名」の廃止について

先にお知らせしておりますが、記名ご本人とその同伴者1名に限りの特典の「同伴者1名」の部分は12月末日で廃止となります。

新会員紹介

—ご入会ありがとうございました—

平成15年4月～平成15年7月
(敬称略)

4 月

札幌市 東 生 野
 “ 最上谷 文 夫
 “ 小林 恭 江
 “ 及川 洋 子
 “ 入沢 芳 子
 “ 久保 溪 女
 “ 鈴木 恵 子
 “ 本田 留美子
 室蘭市 武田 雅 子
 千歳市 佐藤 志 保
 札幌市 斉藤 悦 子
 “ 津畑 直 子
 “ 市来 まつみ
 “ 加藤 有 子
 “ 山上 雅楽佳
 江別市 近藤 文 子
 札幌市 笠井 彦 隆
 “ 渡辺 康 代
 “ 松浦 誠
 “ 諸岡 泉 子
 “ 神野 泰 彦
 “ 奥平 洋 子
 “ 小沢 道 彦
 “ 田中 新 一
 “ 佐久間 千鶴子
 “ 村上 昭 子
 “ 阿部 三 冬
 “ 佐々木 考 子
 “ 小山 徳 子
 “ 田中 由美子

苫小牧市 河野 豊
 札幌市 細川 道子
 “ 長谷 佳司
 “ 鈴木 正子
 “ 今堀 祥子
 “ 畠山 慧子
 “ 池田 静子

5 月

札幌市 大村 文 子
 “ 大橋 美保子
 “ 西岡 裕 子
 “ 吉田 笑 子
 “ 後藤 孝 子
 江別市 大田 京 子
 札幌市 小林 浩 子
 “ 桑谷 恵 之
 北広島市 佐々木 美和子
 小樽市 久野 和 子
 札幌市 伊藤 英 樹
 “ 万崎 由美子
 江別市 箕浦 いまり
 札幌市 阿部 洋 子
 “ 工藤 恵美子
 札幌市 星山 栄 子
 “ 山本 恭 子
 “ 若原 恭 子
 釧路市 三上 雅 彦
 岩見沢市 笹山 睦 子
 札幌市 塙 用 子
 “ 本間 公 子

札幌市 小林 香代子
 “ 原 賢 司
 “ 魚住 昌 也

6 月

札幌市 町田 朋 洋
 “ 国島 孝 夫
 “ 安田 美津子
 “ 阿部 順 子
 “ 柳田 道 子
 “ 佐々木 信義
 “ 長谷部 恵 子
 “ 浅長 静 子
 旭川市 赤川 洋 子
 小樽市 園田 美根子
 札幌市 古谷 節 子
 “ 笠川 多美子
 滝川市 芳村 笙 子

7 月

札幌市 池田 淑 美
 “ 藤嶋 喜久子
 “ 時沢 美恵子
 “ 遠藤 洋 子
 “ 神野 善 司
 “ 岩波 弘 子
 “ 斎藤 真 子
 “ 池田 美 帆
 “ 横井 救 一
 “ 大滝 健 一



今回は箏曲(こと)の演奏で声楽家の「うた」もあり、心地よいひとときとなりました。
 その後、ロビーでの「ワインパーティ」での、美味しい料理を楽しむながらの時間は、美術館が会場であるという「ぜいたくなひととき」となりました。

二〇〇三年五月三十日の総会后、講堂で「会員のつどい」が開かれました。
 今年の参加者は約百名でしたが、「つどい」の開催は、二十回目を迎えました。年々中味の濃い内容になっていると、参加者からの評もありました。

NEWSROOM

事務局だより



平成一五年度通常総会開催の報告をします。

去る五月三〇日道立近代美術館講堂において総会が開かれ、提案の議題について審議されました。その概要について、大変遅くなりましたが主なものを中心に報告します。

議案第一号の平成一四年度の事業報告、収支決算報告については原案どおり承認可決されました。

その中でも、「美術展観覧者増員への協力」事業では、会員証利用館（道立の各美術館の他二館）八館に支払った観覧料は、約一、一一九万円、会員証利用者は約延べ一七、六〇〇人（同伴者含む）でした。利用先の美術館には、団体扱いの割引金額ですが、同伴者も含めて別途、協会の会計から支払いました。

当協会運営の財政圧迫を少しでも緩和するため、同伴者の取扱いについては、前年度も取り上げ、理事会で継続して検討して参りましたが、この取扱いを一五年一二月二二日で終了することとし、会員の皆様にはすでに

文書をもってお知らせしたとおりです。

会員数については、平成一五年三月末で法人・個人会員合計一、七九四人、前年比二〇人の減となっております。平成一四年度の収支決算については「表一」のとおりです。

議案第二号の平成一五年度の事業計画、収支予算案については原案どおり承認可決されました。

ここで、平成一五年度の事業計画及び予算について報告します。年度事業は次のように計画しています。

ただし、もうすでに事業が終了したものの、進行中のものもありますので、ご了承下さい。

- 一 道立近代美術館の事業活動に対するボランティア活動協力
- 常設展の解説・美術関係資料の整理・一ヶ月の芸術週間での事業・アミューズメント事業協力等
- 二 美術展観覧者増員への協力
- 会員証利用による美術展観覧者の増員協力・観覧料の負担
- 三 美術館普及活動への協力
- 会報・ポスター配布・展覧会案内送付等の広報活動及び館外での美術館普及活動（美術への誘い事業）等
- 四 美術講座の実施

今年から、受講者を一般とボランティア希望者に分けて実施。但し、両者共通で一〇講座を四月〜七月（終了済み）。ボランティア希望者にはその後六講座を八月〜九月、さらに共通・専門養成研修を一〇月〜三月まで実施する。

五 「つどい2003」の実施

通常総会の終了後開催、参加者九七名、近代美術館講堂で箏曲演奏の後、Fホールでワインパーティ（終了済み）

六 「Junior Art Club」の実施

子どもたちを対象に、美術に対する関心を高める。（年四回、ミニ二回を含む）

七 美術研修旅行の企画・実施

- (1) 第九回道内旅行旭川方面の美術館めぐり 九月中旬一泊二日
- (2) 第三回海外旅行 新型肺炎等世界的混迷につき休止とした
- (3) 第二〇回道外旅行 富山・石川・福井方面美術館めぐり

一〇月下旬 三泊四日

- 八 図録・絵はがき等の作成・販売
- 九 「美術館協働会賞」の贈呈

学生美術全道展への後援と最優秀作品へ賞の贈呈（副賞付き）

一〇 会員の拡大・PR

二 売店・駐車場の経営・管理

一五年度収支予算については、「表二」のとおりです。

議案第三号の会員の資格喪失（会費を二分分以上納入しないときは除名とする）については、個人会員一五名が資格喪失として原案どおり承認可決されました。

議案第四号の役員の欠員補充人事については、前年度、鈴木英二副会長の退任後欠員不補充としたものであるが、現行定款（未改正）に抵触するとして、谷紘子氏を理事として補充を提案し、原案どおり承認可決されました。

また、報告として、浦田専務理事から、会員証による同伴者利用の終了について再度詳細説明があり、了解された。その他、一部出席会員からの質疑応答・要望があった。主なものは次のとおり。

* 過去において協力が会が寄贈した 絵画の常設展示がない。

* 近年所蔵目録の作成発刊がない。

* 会員の横の連携を図る組織がない、会員動向・掌握に努めるべき。これが、勧誘・拡大に発展するのではないか。

以上をもって全議題終了したので閉会となった。

(表1) 平成14年度収支決算総括表 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部						支 出 の 部					
科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去	科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去
			売店会計	駐車場会計					売店会計	駐車場会計	
基本財産運用収入	2,400	2,400	0	0	0	事 業 費	62,008,720	15,138,172	32,623,986	12,246,562	0
会 費 収 入	16,019,000	16,019,000	0	0	0	管 理 費	6,316,159	6,316,159	0	0	0
事 業 収 入	49,324,253	1,511,000	34,843,015	12,970,238	0	特 定 預 金 支 出	0	0	0	0	0
寄 付 金 収 入	62,062	62,062	0	0	0	繰 入 金 支 出	0	0	1,000,000	0	△1,000,000
繰 入 金 収 入	0	1,000,000	0	0	△1,000,000	予 備 費	0	0	0	0	0
特 別 収 入	0	0	0	0	0						
雑 収 入	1,784	62	1,682	40	0	当 期 支 出 合 計	68,324,879	21,454,331	33,623,986	14,246,562	△1,000,000
当 期 収 入 合 計	65,409,499	18,594,524	34,844,697	12,970,278	△1,000,000	当 期 収 支 差 額	△2,915,380	△2,859,807	1,220,711	△1,276,284	0
前 期 繰 越 収 支 差 額	30,034,485	5,364,440	23,070,101	1,599,944	0	次 期 繰 越 収 支 差 額	27,119,105	2,504,633	24,290,812	323,660	0
収 入 合 計 (B)	95,443,984	23,958,964	57,914,798	14,570,222	△1,000,000	支 出 合 計 (B)	95,443,984	23,958,964	57,914,798	14,570,222	△1,000,000
予 算 額 (A)	92,587,000	24,411,000	52,074,000	17,102,000	△1,000,000	予 算 額 (A)	92,587,000	24,411,000	52,074,000	17,102,000	△1,000,000
差 異 (A - B)	△2,856,984	452,036	△5,840,798	2,531,778	0	差 異 (A - B)	△2,856,984	452,036	△5,840,798	2,531,778	0

(表2) 平成15年度収支予算総括表 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	収 入 の 部					支 出 の 部				
	科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 異	備 考	科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	差 異	備 考
一 般 会 計	基本財産運用収入	3	9	△6	定期預金利息	事 業 費	13,223	15,251	△2,028	
	会 費 収 入	15,165	16,646	△1,481	法人、個人会員等年会費	美術館活動協力事業費	11,930	12,712	△782	V線線・線・線・線・線
	事 業 収 入	1,370	1,370	0	美術講座受講料・つどい会費等	美術講座等開催事業費	690	625	65	美術講座資料作成費・つどい経費等
	寄 付 金 収 入	10	10	0		美術館研修視察事業費	202	202	0	コーディネーター旅費等
	繰 入 金 収 入	1,500	1,000	500	売店会計から繰入	美術優秀創作顕彰事業	401	401	0	協力会員の運営経費(海外旅行研修旅費等)
	特 別 収 入	37	0	37	美術振興基金利息	活動25周年記念事業	0	1,311	△1,311	14年度単独事業終了
	雑 収 入	11	12	△1	普通預金利息	管 理 費	6,554	6,027	527	運営管理費
						特 定 預 金 支 出	37	0	37	美術振興基金積立預金支出
						予 備 費	0	100	△100	
						当 期 支 出 合 計	19,814	21,378	△1,564	
	当 期 収 入 合 計	18,096	19,047	△951		当 期 収 支 差 額	△1,718	△2,331	△613	
	前 期 繰 越 収 支 差 額	2,504	5,364	△2,860		次 期 繰 越 収 支 差 額	786	3,033	△2,247	
	収 入 合 計	20,600	24,411	△3,811		合 計	20,600	24,411	△3,811	
特 別 会 計	売 上 収 入 等	29,000	29,000	0	売上収入	事 業 費	27,418	27,523	△105	仕入、賃金、施設賃借料等
	雑 収 入	2	4	△2	預金利息	繰 入 金 支 出	1,500	500	1,000	一般会計へ繰入
	当 期 収 入 合 計	29,002	29,004	△2		当 期 支 出 合 計	28,918	28,023	895	
	前 期 繰 越 収 支 差 額	24,290	23,070	1,220		次 期 繰 越 収 支 差 額	24,374	24,051	323	
	収 入 合 計	53,292	52,074	1,218		合 計	53,292	52,074	1,218	
駐 車 場	駐 車 料 金 収 入	13,500	15,500	△2,000	駐車場使用料収入	事 業 費	13,154	14,889	△1,735	管理委託料、土地借上料等
	雑 収 入	1	3	△2	預金利息	繰 入 金 支 出	0	500	△500	
	当 期 収 入 合 計	13,501	15,503	△2,002		当 期 支 出 合 計	13,154	15,389	△2,235	
	前 期 繰 越 収 支 差 額	323	1,599	△1,276		次 期 繰 越 収 支 差 額	670	1,713	△1,043	
	収 入 合 計	13,824	17,102	△3,278		合 計	13,824	17,102	△3,278	
内 部 取 引 消 去	△1,500	△1,000	△500		總 合 計	△1,500	△1,000	△500		
總 合 計	86,216	92,587	△6,371		總 合 計	86,216	92,587	△6,371		

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

アルテピアは美術館に協力し、美術の普及振興につとめる組織です。

詳細は北海道美術館協会(アルテピア)へ

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>

アート・レファレンス・サービス(ARS)



ボランティア活動PRコーナー

ロビー(2F)



近代美術館 コーナー



レストラン・ぼーさーる



ミュージアムショップ(1F)



ミュージアムショップ(2F)

のです。

道内の各美術館では、特別展を中心に「文化の秋」をくり広げます。

「世界の art」に出会える：

ます。つけ美術館の庭を「秋色」に染め

もあまり見えなくなりました。

そして、ナナカマドが紅い実を

編集 だより

近代美術館で開催

されていた「大トル

コ展」も終わり、駐

車場に毎日のように

いた？各地の「バス」

日通旅行へ

〇一―一三三三―一四六三三

申込みは

第締切ります。お問い合わせ、

十三日ですが定員になり次

申込み期間は九月八日〜

予定です。

九谷焼美術館等八館を鑑賞

予定です。

室生犀星記念館・石川県

ります。

づく秋の北陸を十月二八日

〜三十一日の三泊四日でめぐ

ります。

秋の北陸

美術館

めぐり



深く、濃く